

保育者養成校における身体表現の授業研究

—教師の言葉掛けに着目して—

Class Study of Physical Expression in a Child-care Worker Training School:
Focusing on the Teacher's Words

金浦美咲*・小松恵理子**
Misaki Kanaura, Eriko Komatsu

*鹿児島女子短期大学 **鹿児島女子短期大学名誉教授

幼児の身体表現を引き出すためには保育者の言葉掛けが重要であるが、自由で多種多様な表現ができる身体表現の指導に不安を抱えている保育者は多い。保育者養成校において、身体表現の指導を長年行ってきた熟練教師の授業に着目し、分析を行うことで、保育現場における身体表現の重要性を改めて示すことができると考えた。そこで本研究では、身体表現の授業において教師がどのような言葉掛けを行い、それらに学生はどのような気付きを得たのかを明らかにすることを目的とした。今回の授業実践を通して、学生は様々な教師の言葉掛けに気付くことができたと考えた。熟練教師の授業の中で学生にとって多くの気付きがあったことは、今後、保育技術を向上させる過程において大きな力になると考える。KJ法によって生成された上位カテゴリー【問いかけ】【褒める】に代表される言葉掛けができるような保育者を養成することが重要である。

Key words : 幼児、身体表現、言葉掛け、授業研究

Infant, Physical expression, Words, Class study

1. はじめに

身体表現の重要性について村田は、自由で多様な、決まった答えのない「ゴルフフリー」¹⁾なものであると述べている。また、島内は「ダンスの踊る、創る、観るという心身をかけた活動そのものに内在する教育的価値があり、これらのダンス活動を通しての人間形成的な価値がある」²⁾と述べている。身体表現・ダンスは自分の思いや考えを身体で表現することであり、保育者は、幼児が自由に身体で表現する喜びを実感できる機会を提供することが重要である。しかし、遠藤は保育者への質問紙調査によって、保育者は「自由な表現の指導を展開する内容に難しさを感じている」³⁾と明らかにしている。また、増田・松岡の調査においても「保育者が日々の保育でも身体表現を継続して行いたいと感じている反面、身体表現の指導に難しさや自信のなさを感じている…決まった振付のダンスだけではない自由な表現を含む身体表現の活動への指導技術を身につけることが必要」⁴⁾とあるように、自由な身体表現の指導の困難さから、既成の振付を幼児に指導、習得させるという活動に留まってしまっている現状がある。筆者が保育所や

幼稚園等に訪問した際に、運動会やお遊戯会等で行われるような既成の振付を幼児が保育者から習い、発表するという活動を身体表現と捉えている現場が多いと感じた経験もある。このように、自由で、多種多様な表現ができる身体表現の指導に不安を抱えている保育者が多いことがわかる。

また、身体表現に限らず、保育所や幼稚園での実習から戻ってきた学生からよく耳にするのは幼児への言葉掛けが難しいということである。高原が「子どもの表現意欲を高め、楽しくいきいきとした表現活動に発展させるのは、保育者の適切な言葉かけであろう。その際、動きをイメージするような擬態語・擬音語・擬声語（オノマトペ）を使い、また、声の大きさや調子を変えて、子どもが自然に動けるように工夫することも必要である」⁵⁾と述べているように、幼児の身体表現を引き出すためには保育者の言葉掛けが重要である。保育現場に立った際に、幼児のより自由な身体表現を引き出せるような言葉掛けを行うことのできる保育者を養成することが大切である。

2. 目的

以上のような見地から、保育者養成校において、身体表現の指導を長年行ってきた熟練教師の授業に着目し、分析を行うことで、保育現場における身体表現の重要性を改めて示すことができると考える。また、これまで鹿児島県内の保育者養成校において、どのような身体表現の授業が行われているか、また、教師の言葉掛けに着目した授業研究は見られない。そして、本研究において明らかになった結果は、南九州地域の保育所・幼稚園での活躍が期待される学生の保育技術向上において非常に有用であると考えられる。

教師がどのような言葉掛けを行うかによって、学生の身体表現の豊かさ、表現の多様性は大きく変わると考える。そこで本研究では、身体表現の授業において教師がどのような言葉掛けを行い、それらに学生はどのような気付きを得たのかを明らかにすることを目的とする。

3. 方法

3.1 対象授業

K女子短期大学・保育者養成課程では「保育内容（表現）の指導法」の授業が1年生後期に必修科目として開講されており、全15回のうち音楽表現・造形表現・身体表現の領域（各5回）から構成されている。身体表現領域全5回の授業計画は表1の通りである。また、新型コロナウイルス感染症予防には十分に配慮し、授業を行った。

表1 「保育内容(表現)の指導法」身体表現領域の授業計画(全5回)

回数	内 容
1	表現の実際（動画視聴） 教師の実践から学ぶ①（遊びから表現へ、素材から表現へ）
2	教師の実践から学ぶ② （季節や生活・文化から表現へ、空想物語から表現へ）
3	模擬保育
4	模擬保育
5	オペレッタ（自分たちの工夫を加味して）

第1回目の授業では、実際に保育所で行われている、身近な素材である新聞紙を用いた身体表現活動について映像を視聴した。その後、ゲームの要素を含む身体表現を行ったり、絵本や風船、シャボン玉などの身近な素材を用いた身体表現についての紹介を行ったりした。第2回目の授業

では、主に紙飛行機を用い、学生が幼児役となり身体表現活動を行った。学生が幼児役となることで、保育者からの言葉掛けをよりイメージできるようになる。本研究ではこの第2回目の授業を研究対象とした。授業者は表2の保育・言葉掛けプランニングシート⁶⁾を事前に作成し、授業を行った。

第3、4回目の授業ではグループに分かれて事前に保育・言葉掛けプランニングシートを記入し、身体表現に関する模擬保育を行う。第5回目の授業では、実際の保育現場でもよく行われているオペレッタの教材を用いて、学生自身が工夫を加えながら舞台発表を経験する。

以上が身体表現領域、全5回の授業計画である。学生が幼児役となり、身体表現の面白さや価値を実感し、実際の保育現場での言葉掛けがよりイメージしやすくなるという理由から、本研究では第2回目の授業を研究対象とする。詳細な授業内容については第4章第1節「授業内容」において記載することとする。

授業者は、舞踊指導歴42年の教師である。

3.2 対象者と調査実施日

対象者はK女子短期大学・保育者養成課程に所属する1年生、4クラス計185名である。研究対象とする第2回目の授業時には、写真撮影及び肖像権使用についての説明を行い、同意を得られた対象者には同意書に署名を依頼した。185名全員から同意書が回収できた。

各クラスの調査実施日については表3の通りである。

3.3 調査内容

第2回目の授業を4クラス全て、ビデオカメラにて撮影した。また本研究では教師の言葉掛けに着目するため、授業者にピンマイクを付け、より鮮明に教師の言葉が録音できるようにした。そして、授業終了後に対象者へ質問紙調査を行った。質問紙の回収率は100%であった。質問紙の調査内容については以下の通りであり、自由記述にて回答を求めた。質問紙への回答を求める際も、記入した結果は統計的に処理し、個人を特定することは一切無いことを説明し、同意を得られた対象者には署名を依頼した。

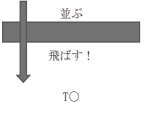




今日の「保育内容（表現）の指導法」の授業について答えてください。

教師の工夫や言葉掛けについて気付いたことを記入してください。言葉掛けについては、どのような場面で、どのような言葉掛けがなされましたか。覚えている範囲で構い

保育者養成校における身体表現の授業研究

表2 保育・言葉掛けプランニングシート

時刻	保育内容(表現)	身体表現/保育・言葉掛けプランニングシート (主な保育の流れ) 保育の流れに沿って、具体的な言葉掛けを考える。	令和3年12月15日(水)	番 氏名 (E.K)	非 日 常	抑 揚	ロ リ ズ ム	動 き の 変 化 等	ス ト ッ プ M 等	発 想 の 転 換	
13:10	＜環境構成＞ 音響・照明・教材 保育者/位置 保育室/使用方法等	TO S 準備物 ・コピー用紙 50枚 ・クレヨン (8セット)	＜授業前に出欠等は済ませておく＞ ◎先生のとこに集まり、お話を聞く。(主たる活動) ・みなさん、おはよう。今日も幼稚園に来てくれてありがとう。一緒に元気に遊ぼうね。 ・最初に、みんなの好きなお歌で歩いてみましょう。(虹の向こうに) —自由に体育館を歩いた後、教師の前に集まる— ・かっこよく歩けたね。次はいつもの体操「あいうえお星様」だね。 ・上手にできました。体いっぱい伸ばした？気持ちよかった？ ・じゃ、次は～～～みんなの好きなジャンケン・ボンだ！							指示は明確に。笑顔で！	
13:15	＜拡がる＞	TO S	◎体ジャンケンをする。 ・先生とジャンケンをしましょう。(普通のジャンケン：時間に応じて1～3回勝負する。) ・勝った人は「勝利のダンス！」負けた人は「次は負けないうダンス！」あいこは「一度小さくなって戻りましょう！」 ・じゃ～いっくよ。最初はグー・ジャンケン・ボン！ ・次は、負けたら壁にタッチして戻ってきて！今度も3回勝負だよ！ (3回勝負の結果別に即興で短く踊る。) ・じゃあ今度は体で、グー・チョキ・パーを作ってみよう。 ・グーはどうする？ チョキはどうする？ パーはどうする？(学生のアイデアを採用する。) ・OK！ ジャンケン・ジャンケン・ジャンケン・ボン！(3回行う。)							ゲームのテンションやリズムを妨げないようにジャンケン間にあまり間をおかない。	
13:20	＜元の位置に戻る＞	TO S OO OOT	◎「グー・チョキ・パー」で表現遊びをする。 ・じゃあ、座りましょう！体があつまってきたね。 —歌い出さず「グー・チョキ・パー」の指遊びだね。みんなもやってみよう。 ・「グー・チョキ・パー」で何作ろう？右手は～ 左手は～ カタツムリ・UF0・お化け etc ・いろんなものができたね。できたものを手や指で動かしてみよう。蝶々、お友達の手へ止まった。カタツムリ、葉っぱの上をよいしょ、よいしょと登ろう。 ・今度はお友達と二人で、右手段と左手段になって、色々なものを作ってみよう。 ・「グー・チョキ・パー・グー・チョキ・パー」で何作ろう？右手は～ 左手は～ 何ができたか！ ・カタツムリができた。じゃあ、かたつむりさんと歩いてみよう。 例：カタツムリ・カブトムシ・寿司・雪だるま・蝶々・ヘリコプター・カニ・お餅・アイスクリーム etc (学生が創作した題材に応じて、次に表現する・移動する瞬間のキュー出しをする。) —蝶々？OK！ そのままきれいなお花のところへ飛んでいくよ！ 3・2・1 それ～ —雪だるま？ あ～お日様だ！ 溶けていく～～～ ・「グー・チョキ・パー」でいろんなことができたね。いろんなものに変身して動けたね。すごく上手だったし、面白かったよ。							形を作るだけでなく、その形を動かしてみる。 形を作るだけでなく、その形で動いてみる。二人で合体して動くことを確認する。 形に時間を足し、運動へ導く。	
13:25		TO	◎紙飛行機を作る。(自分オリジナル) ・ヘリコプターやUF0、飛行機や蝶々、みんな空を飛べるね。 ・お空を自由に飛べて、、、いろんなところに行けるとどんなに素敵だろうね～～。 ・みんなはどう思う？ そうだね、簡単にはお空は飛べないね～～。 ・先生、良い方法を思いついたよ。紙飛行機を作ろう！そしていろんなところへ行ってみよう。 —紙飛行機用の紙を渡す— ・みんな、自分の思う飛行機を作ってみて、知らないお友達は、こんなかな～と思う折り方で良いよ。世界に一つしかない紙飛行機を作ろう！でも、お友達の顔や目に当たらないで。飛ばすときは一緒に飛ばしましょう。これはお約束ね～～。 *自由に折ってもらおう。一見て回る— ・できた～、じゃあ飛ばすよ。ここに並んで。その前に先生ともう一つお約束。 みんなの世界に一つしかない紙飛行機がどんな風に飛んだか、飛び方も世界に一つしかない飛び方だよ。よく見てて、あとで先生に教えてね。一回飛ばしたら、どこからでも飛ばしてみよう。 ・じゃあ、飛ばすよ！ 1～、2～、3！ ・どうだった？教えてね。どんな風に飛んでいた？見せて(全員に聞く。)うまく飛ばなかった～そんなんだ～～。 ○○くんのはす～と飛んでたね。▲▲さんのはこんな風にグニャ、グニャ、ボトンって飛んでたね。 これも世界に一つしかない飛び方だよ～～。							学生の発想やアイデアをできるだけ上げる。 「それもいいね～」 できあがる少し前に、安全に関する注意喚起をする。 紙飛行機を飛ばすことを楽しむだけでなく、紙飛行機の動きの観察を促す。	
13:30		並ぶ 飛ばす！ TO	・じゃあ、今度はみんなも紙飛行機になって、お空を飛んでみよう。紙飛行機の紙に変身するよ。 紙にへんし～～～ん。ピラピラ、しゃき～～ん。折って、折って、オルオル(早く)戻してまたお～～る。(リズムを変える。) はいできました飛行機ポーズ！ ・飛ばすよ！ 1～、2～、3！ (飛行機の身体表現) それ～～～。 ・みんな素敵に飛べたね。							折った手順に沿ったロリズムにする。	
13:35		TO	◎紙飛行機2 ・でも、ず～～ともって飛びたい?? ・じゃあ、先生がもつと飛べる紙飛行機を教えるからね。もう一枚紙を配ります。 ・よ～～く見ててね。 ・紙を縦に真ん中で折ります。次に角から谷の方へ斜めに三角に折ります。(折りながら見せる) みんなでできる？(時折、全員の進行状態を確認する。) 反対にも折ってください。そうするとお家のようになります。お屋根のてっぺんを、真ん中より折ってピラピラしている紙の先に折ります。そうしてできた角をまた三角に折ります。そうすると真ん中に小さな三角が見えるね。それを手前に折ります。そのまま、山を谷にして折ります。できた羽を一番下の線に合わせて。それで完成！もつと飛ぶように、ここが大事！鼻の油をちよいとつけます。(大袈裟に) ・できた?? ?見せて～～。(確認する。) みんなでできたみたいだね。								一つ一つの手順がわかりやすいように見本を見せながら進める。

時刻	<環境構成> 音響・照明・教材 保育者/位置 保育室/使用方法等	<言葉掛けプラン> (主な保育の流れ) 保育の流れに沿って、具体的な言葉掛けを考える。	非 日 常	抑 揚	ロ リ ズ ム	動 き の 変 化 等	ス ト ッ プ M 等	発 想 の 転 換
13:45		<ul style="list-style-type: none"> では、世界に一つしかない飛行機に、好きな絵を描いてみましょう。ここにクレヨンがあるから使ってね。一紙飛行機に絵を描くー(巡回する。) →○○ちゃんのは、ひまわりのマーク！ ▲▲さんのは番号なんだね〜。(いくつか取り上げる。) そろそろ終わりだね。クレヨンを先生のところに持ってきてね。 						
14:00	  *いろいろなところに出かける 	<ul style="list-style-type: none"> みんないいのができたね。この紙飛行機に乗ってどこに行きたい?? 一希望を聞くー ハワイ:フラダンス、サーフィン TDL:メリーゴーランド、コーヒーカップ、ジェットコースター USJ:ハリポッターの魔法(魔法の杖)、ジュラシックパーク(恐竜) 韓国:K-POP ダンス(BTS) etc 						
14:10	 破れた飛行機たち 	<p>◎オリジナルと同様な手順を踏む</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃあ、今度もみんな紙飛行機になって、お空を飛んでみるよ。 紙飛行機の紙に変身するよ。 紙にへ〜へんしん。ピラピラ、しゃき〜ん。折って、折って、オルオル(早く)戻してまたお〜(リズムを変える)はい、できました飛行機ポーズ! 飛ばすよ! 1〜、2〜、3! (飛行機の身体表現) それ〜。 先に開いていたところへ、目的地を決める。 じゃあ、ハワイまで飛んで行こう! 準備はいい? 1、2、3、それ〜。 あー、パワーがなくなって落ちちゃったね。ここで神様にお願ひしよう。 神様、神様、このかわいい紙飛行機たちがいっぱい飛べるように、パワーをください!!! あ〜ありがとう神様。神様がパワーをくれるって! いくよ、パワー全開! よし、また飛び始めよう。 1、2、3! <p>・<u>ハワイ:フラダンス、サーフィン(音楽やロリズム)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> みんな、下見て、ハワイの海だよ〜フラダンスを踊ろう。ら〜ら〜ら〜。 あ、サーフィンもかっこいいね。サーフィンをやろう。おっと、落ちそうだね。あ、大きな波がきた! 今度はこっち! 海の中にも行って泳ごう! お魚さんに変身! <p>・さあ、次に行くよ、どこに行くんだっ?</p> <p>・<u>TDL だったね、1、2、3! それ〜。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> メリーゴーランドがあるよ。降りていこう。(上下動・回る・自転) ら〜ら〜ら〜。 コーヒーカップ(数人で手をつなぐ、回る、崩れる、) ジェットコースター(3〜4人) タラ、タラ、タラタラタラ(早くなる)上昇する(頂上で止め)〜フ〜ウウ(一気に下る) *そのリズムを繰り返す。 <p>・<u>USJへも行こう。1、2、3! それ〜。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ハリポッターの魔法の館だね。 着陸! ハリーだ〜。帯に乗せてもらおう。みんな乗れた? 落ちないように飛んでみよう。 次はなんだろう? ジュラシックパーク!? (ドシン! ドシン!) 恐竜だ〜! Tレックスもいるよ。ガオ〜。 <p>・お友達、あとはどこに行くの? 韓国へ寄り道してみよう。</p> <p>・<u>韓国:素敵なお姉さんたちが踊ってるね。BTSもいる。かっこいい〜。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて踊ろう! 一希望先で、動きになるような場面を想定し、ロリズムをつけるー 						
14:20		<p><園長や他の先生></p> <ul style="list-style-type: none"> どこに行ってた? 何したの? 一学生が答えるー どうだった? 一学生の答えを復唱し、共感するー 楽しかったんだね〜。また次も、紙飛行機でいろいろなところに行ってみようね。考えておいてね〜。 お手洗いや、うがい、手洗いが済んだらどうするの? 次の時間は? どんな準備するの? お当番さんは、給食をつけて給食をもらいに行ってください。 他のお友達は? どうするの? そうだね、静かにお椅子に座って待ってようね。 じゃあ、今日はこれで終わります。 						

ませんので、できるだけ具体的に記入してください。

表3 調査実施日

クラス	日時
1	2021年12月17日 9:10~10:40
2	2021年12月17日 10:50~12:20
3	2021年12月15日 13:10~14:40
4	2021年12月15日 14:50~16:20

3.3 分析方法

まず、4クラスの授業について文字起こしを行った。そして質問紙の自由記述回答について、KJ法を用いて分析を行った。KJ法によって分類したカテゴリーを基に、文字起こしをした授業者の言葉掛けを振り返り、具体的にどのような場面での言葉掛けが対象者の学生にとって印象に残っているのかを分析する。

4. 結果と考察

4.1 授業内容

授業者は、事前に作成した表2の保育・言葉掛けプランニングシートを基に4クラスの授業を行った。どのクラスの授業においても、この保育・言葉掛けプランニングシートを基本としているが、学生の反応や表現の違いによって、言葉掛けや指導の工夫を変えている。

まず、教師の所に集まった際に、学生には幼児役として授業を受講するように伝えた。曲に合わせて自由に体育館を歩いた後、授業内で毎回行っている体操を行った。次はじゃんけんの活動を行った。まずは教師とじゃんけんをし、その次に体でじゃんけんを行った(図1、図2)。その際に、教師がグー・チョキ・パーそれぞれの動きを指示するのではなく、学生から動きを引き出すように「グーはどう動く?」「チョキはどうする?」「じゃあパーは?」と問いかけながら体じゃんけんの動きを決めていた。そうすることによって、幼児役の学生が自分たちで考えた動きを用いて体じゃんけんを行い、より主体的に活動に取り組んでいたと考える。

次に「グーチョキパー」の指遊びの活動を行った。まずは手を使って通常通りの指遊びを行う。カタツムリやお化け、UFOなどいくつかの指遊びを行ったあと、次は2人組を作り、右手役と左手役になり、体全体で色々なものを表現するように伝えた。それぞれの2人組で何を作るか、どのように表現するか考える時間があつた後に、1グルー



図1 体じゃんけんの様子



図2 体じゃんけんの様子

プごとに発表を行った。発表した後には、教師が具体的に良かったところを褒めてより動きが増えるようなアドバイスをしていた(図3、図4)。また、1つのグループが発表した後、「これは何を表現していると思う?」と他のグループに問いかけることで、発表する側、発表を見る側それぞれが表現の良さを認められる活動になっていた。

体でじゃんけんを行ったり、体で「グーチョキパー」になり色々なものを表現したりしたことで、教師と学生、そして学生同士でのコミュニケーションが増え、それぞれの身体表現を認め、良さを感じられるような雰囲気が作られたと考える。

次に、今回の主活動となる紙飛行機の活動である。紙を配り、まずは学生それぞれがオリジナルの紙飛行機を折った。その際、教師は自分の思うように、「世界に一つしかない紙飛行機」を作るということを強調して伝えていた。その後、折った紙飛行機を持って一列に並び、教師の合図



図3 教師が各グループに言葉掛けをしている様子



図5 紙飛行機を一斉に飛ばす様子



図4 教師が各グループに言葉掛けをしている様子



図6 紙飛行機を一斉に飛ばす様子

に合わせて一斉に紙飛行機を飛ばすよう伝えた。紙飛行機を飛ばす際、自分が折ったオリジナルの紙飛行機がどのように飛んだか、後で教師に伝えるよう言葉掛けがあった。図5、図6のように一斉に紙飛行機を飛ばした後、どのような飛び方をしたか、指で軌道を表すよう伝えた。その後、学生自身が紙飛行機になりきり、その軌道を体で表現した(図7)。

学生がそれぞれの折り方で折った紙飛行機を飛ばした後、教師が「もっともっと飛ばしたい?」と問いかけ、より遠くへ飛ばすことのできる紙飛行機の折り方を伝えた。教師の周りに学生が集まり、新しい紙を使って紙飛行機を折った。その際、教師は学生それぞれが折り方を理解できているか、全員の進行状態を確認しながら分かりやすい言葉を用いて説明を行った(図8、図9)。

全員が紙飛行機を折ったことを確認した後、クレヨンやペンなどを使って紙飛行機に好きな絵を描く活動を行っ



図7 学生自身が紙飛行機になりきる様子

た。この際も「世界に一つしかない紙飛行機」を作ることとを強調して伝えた。そうすることによって、幼児役の学生



図8 教師の説明を聞きながら紙飛行機を折っている様子



図10 紙飛行機に絵を描いている様子



図9 学生が紙飛行機を折っている様子

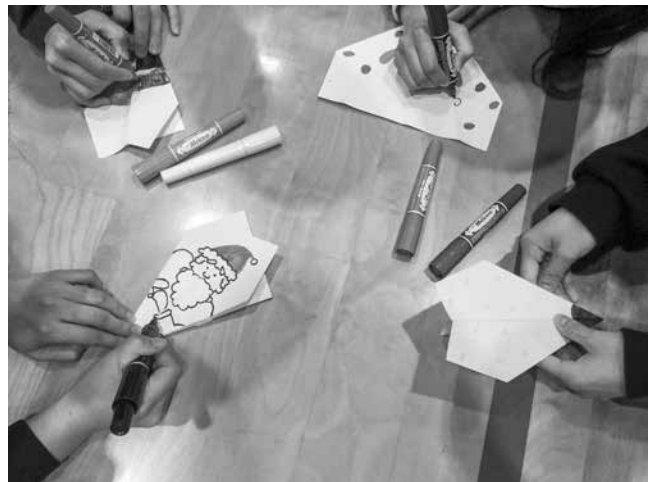


図11 紙飛行機に絵を描いている様子

の意欲が高められていた。また、クレヨンやペンなどを使って紙飛行機に絵を描くという造形表現の活動も含むことで、身体表現だけではない複合的な領域の活動となっていることがこの活動の特徴である。学生が絵を描いている際は、教師がそれぞれの絵を見ながら巡回し、何を描いたのか問いかけたり、褒めたりしていた（図10、図11）。

絵を描き、「世界に一つしかない紙飛行」を作った後、「この紙飛行機に乗ってどこに行きたい？」と学生に問いかけた。学生からは、海外の国名や、テーマパーク名などの具体的な目的地の発言があった。その後、オリジナルの紙飛行機を飛ばした時と同じ過程で、一列に並び一斉に紙飛行機を飛ばした。オリジナルの紙飛行機よりもよく飛ぶ紙飛行機を見て、学生からは歓声が上がり、何度も紙飛行機を飛ばす姿が見られた。何度もくりかえし紙飛行機を飛ばした後、学生自身が紙飛行機になり、その軌道を体で表現した。オリジナルの紙飛行機を体で表現した時よりも、

より速く、より遠くへ飛ぶ紙飛行機を表現できていたように感じた。紙飛行機が着陸する表現を行う際、色々な着陸の仕方があることを教師が実際にやって見せた。そうすると、手を挙げたり、片足を上げたりして紙飛行機の着陸を表現する学生が出てきた（図12）。紙飛行機同士がぶつかって着陸するような表現を複数人で行っている学生もいた。紙飛行機が真っ直ぐにしか飛ばないような表現となっていたクラスもあり、その際は「紙飛行機は真っ直ぐにしか飛ばないんだっけ？」「どんな方向に飛んでいた？」などの軌道をイメージできるような具体的な言葉掛けを行っていた。

紙飛行機を飛ばす前に、学生に問いかけていた目的地に飛んで行くような言葉掛けを行った。例えばハワイに行き、フラダンスやサーフィンをしたり、海に潜って魚と泳いだりする具体的な場面を学生にイメージをさせながら表現を行った。ハワイからまた紙飛行機になりきり、次にテーマパークでの表現を行った。テーマパークではメリー



図12 紙飛行機の着陸を様々なかたちで表現する様子



図13 メリーゴーランドを表現している様子

ゴーランドの表現（図13）を行ったり、ジェットコースターの表現（図14）を行ったりした。ハワイに行ったり、テーマパークに行ったりする表現を行う際は、その場所の雰囲気に応じた音楽を流すことで学生の意欲をより高められた。ジェットコースターの表現については教師の口リズムがとても効果的であった。

様々な目的地での表現を行った後、「園長先生から電話だよ。もう給食の時間だから帰ろうか？」と、園に戻るような言葉掛けを行った。紙飛行機になりきり、園に戻った後は「どこに行っていたの？」「何をした？」と活動を振り返る問いかけを多く行い、幼児役の学生からの発言を引き出していた。

4.2 教師の言葉掛けに関する学生の気付き

身体表現の活動において、教師がどのような言葉掛けを行うかによって、表現の豊かさ、表現の多様性は大きく変わると考える。前節で述べた授業実践において、学生は、言葉掛けに関するどのような気付きを得たのかを明らかにする。

授業終了後に行った質問紙調査において、教師の工夫や言葉掛けについて気付いたことを記入してもらった。その自由記述回答から、教師の言葉掛けに関する記述を計311抜き出すことができた。それらをKJ法を用いて分類すると11のカテゴリーに分けることができた（表4）。表4における代表的な自由記述回答の（ ）内の数字は、回答数である。

生成されたカテゴリーは、本文中では【】で示すこととする。それぞれのカテゴリーについて、具体的な回答と照らし合わせながら考察をする。なお、自由記述回答をその



図14 ジェットコースターを表現している様子

まま掲載したものを本文中では「」で示すこととする。

まず、最も回答数の多いカテゴリーは【問いかけ】であった。紙飛行機を飛ばした後、学生が紙飛行機になりきり様々な場所に向かう表現活動の中では「どこへ行く？」と、学生からの発言、そしてその後の表現を引き出すような問いかけがなされていた。また、振り返りの際も「今日はどこへ行った？」と問いかけることで、学生からの発言を引き出し、学生主体で振り返りを行うことができていた。教師が最初から具体的な動きを指示するのではなく、問いかけながら動きを引き出すことでより多様な表現が引き出され、学生も自発的に体を動かし様々な表現ができていたと考える。「飛行機になりきった時、同じ方向にしか飛ばないのか問いかけることで様々なところに行くようになると思った」とあるように、表現の幅をより広げるための言葉掛けも状況に応じてなされていた。

【褒める】言葉掛けについては、「一人ひとりを褒める」

保育者養成校における身体表現の授業研究

表4 KJ法によって生成されたカテゴリー

カテゴリー	回答数	割合	代表的な自由記述回答
問いかけ	97	31%	どこへ行く？(32) 今日はどこに行った？(10) どんな動きをする？(10) 問いかけ(10) 飛行機になりきった時、同じ方向にしか飛ばないのか問いかけることで様々なところに行くようになると思った(5) 子どもに質問して子ども主体となる活動にするような言葉掛け
褒める	46	15%	一人ひとりを褒める(15) 「いいね」(8) 良いところを具体的に伝える(4) 1グループずつ発表する時、誉め言葉を一言かける(3) 幼児の表現を具体的に褒めていた あまり上手にできなくても全部褒めてくれた
約束・注意	31	10%	注意事項についての言葉掛け(10) 教師が話す時は静かにするように言葉掛け(5) 約束事(4) 話を集中して聞くことができるように「キラキラのおめめを見せて」(3) 静かにしてほしい時は教師も声量を下げて言葉掛け
なりきる	27	9%	もっとなりきれるような言葉掛け(5) 「変身！」(3) 本当にその動物や物になったような言葉掛け(2) 自分の体を紙にすることで本当に紙飛行機になって楽しく体を動かすことのできるような言葉掛け 「自分の飛行機になりきって」
動き	24	8%	動きが発展するように言葉掛け(4) 動くことが難しい人に対して言葉掛け(3) 具体的な表現を促す(2) なかなか動きができない子に教師が言葉掛けをし、動きのヒントを与えていた 飛ばした紙飛行機の真似をするように言葉掛け
イメージ	23	7%	イメージがより膨らむような言葉掛け(5) 「～のように」など具体的な言葉掛け(2) 想像しやすい言葉掛け(2) 旅行に行く場面でどのような風景かを聞いて想像力を促す言葉掛け 「ここは〇〇ですよ」と場所を指定することでそこにあるものをイメージしやすくなる
個性	19	6%	「世界に一つだけの紙飛行機」(11) 一人一人違うやり方でいいよという言葉掛けをし個性を尊重していた(4) 紙飛行機を作る時に自分なりに作ろうという言葉掛け(2) 「自由にしていよ」 「ずっと飛んでいる紙飛行機でも良いんだよ」
理解	19	6%	分かりやすいように言葉掛け(10) 次の動作の言葉掛けをすることで次に何をするのが分かりやすかった(3) 何度も同じことを言葉掛け 「〇組のみんな返事をしてください」 長い針という風な言葉掛け
意欲	16	5%	言葉掛けがあったから楽しく体を動かしながら活動することができた(5) 興味が高まるような言葉掛け(4) 気持ちが高まるような言葉掛け 「～してください」ではなく、みんなが主体的にできるように「～しましょう」と言っていた オウム返しをすることで「聞いてもらえている」とうれしくなるように言葉掛け
オノマトペ	6	2%	飛行機が飛ぶ音「ビューン」「ヒューン」(2) 「指先までピシッ」 「パタッ」と紙飛行機を折る音 オノマトペ 擬音
共有	3	1%	考えをみんなと共有できるような言葉掛け 1組ずつアイデアや発想を周りに伝えていた 幼児が描いたものを見て言葉掛け
総回答数	311		

「良いところを具体的に伝える」とあるように、ただ褒めるだけではなく、それぞれの表現の違いを認めて、良さをできるだけ具体的に伝えることが大切だとわかる。特に、今回の授業ではグループごとの発表の際、教師がそれぞれのグループを周り、良さを伝えていたことが、学生の印象にも強く残っていたようである。

【約束・注意】【理解】の 카테고리においては、幼児役の学生に分かりやすく、そして活動の流れが理解しやすいような言葉掛けが行われていたことがわかる。特に、【約束・注意】については、学生が安全に、怪我の無いように活動できるよう教師が配慮していた。特に、「話を集中して聞くことができるように『キラキラのおめめを見せて』」という言葉掛けがされた際には、学生の反応がとても早かった。実際の保育現場においてもとても有効な言葉掛けであるのだと感じた。

【なりきる】【イメージ】では、幼児役の学生が紙飛行機の世界に、より没入できるような言葉掛けがされていたことがわかる。「旅行に行く場面でのどのような風景かを聞いて想像力を促す言葉掛け」とあるように、想像した風景に合った音楽を流すような工夫もしながら、言葉掛けによって学生の表現をより豊かなものにしていったと考える。

【動き】は、身体表現の中核となる体を使って自分の思いやもの、イメージを表現することを引き出す言葉掛けであった。「動きが発展するように言葉掛け」とあるように、今ある動きをさらに発展させるようなアドバイスがあった。そして、動くことが難しい学生、なかなか動きができない学生には、動きや表現のヒントを与えていたことも学生の印象に残っているようである。

【個性】では、「世界に一つだけの紙飛行機」という言葉がとても印象に残っているようだ。世界に一つだけの紙飛行機、そして世界に一人だけの私、といったそれぞれの個性を認め、自由な表現ができるよう授業において一貫した言葉掛けがなされていたと考える。

【意欲】では、「言葉掛けがあったから楽しく体を動かしながら活動することができた」とあるように、身体表現を行う中で、いかに言葉掛けが大事であるかということが示唆されている。『「～してください」ではなく、みんなが主体的にできるように『～しましょう』と言っていた』『オウム返しをすることで『聞いてもらえている』とうれしくなるように言葉掛け』とあるように、教師からの言葉掛けが幼児役の学生の意欲をより高め、多様な表現に導いていたことがわかる。

【オノマトペ】では飛行機が飛ぶ音「ビューン」「ヒュー

ン」や、紙飛行機を折る音「ピシッ」などが挙げられた。オノマトペは実際の保育現場においても有効な言葉掛けであることはすでに明らかとなっているが、本研究においても、オノマトペは有効な言葉掛けであり、学生の気付きに繋がっていることがわかる。

【共有】では「考えをみんなと共有できるような言葉掛け」「1組ずつアイデアや発想を周りに伝えていた」とあるように、学生からの発言や表現をその場で共有することが大切であることがわかる。

4.3 まとめ

今回の授業実践を通して、学生は様々な教師の言葉掛けや指導の工夫等に気付くことができたと考えられる。実習や、将来保育現場に立った際、本研究で見られたような言葉掛けができるようになることがもちろん望まれる。しかし、今回、舞踊指導歴の長い熟練教師が行う授業の中で学生にとって多くの気付きがあったことは、今後、保育技術を向上させる過程において大きな力になると考える。特に、KJ法によって生成された上位カテゴリー【問いかけ】【褒める】に代表される言葉掛けができるような保育者を養成することが保育者養成校としての課題である。

5. 今後の展望と課題

本研究では、身体表現の授業における教師の言葉掛けにのみ着目した。身体表現を指導する中で、教師は言葉掛けだけでなく、学生へのアイコンタクトや、体の表現での誘発など様々な手法を用いている。今後の研究では言葉掛けだけでなく、そういった、言葉を使わない指導の工夫についても着目し研究していきたいと考えている。本研究及び今後の研究で明らかになったことをもとに、幼児の豊かな身体表現を引き出すことのできる保育者を養成するための授業を行っていきたい。

6. 引用・参考文献

引用文献

- 1) 村田芳子 (2008) : 表現運動・ダンスの授業で身につけさせたい学習内容とは?—学習内容と「習得・活用・探求」の学習をつなぐ—。体育科教育56 (3) : 14-18.
- 2) 島内敏子 (2011) : 明日からトライ! ダンスの授業。全国ダンス・表現運動授業研究会編。大修館書店。135.
- 3) 遠藤晶 (2006) : 幼児の身体表現の指導に関する保育者の意識について—身体表現の指導に関する困難さについてのアンケートの検討を通して—。武庫川女子大学紀要 (人文・社会科学編) 54 : 91-99.

- 4) 増田未来・松岡綾葉 (2017): 幼児の身体表現における外部講師の役割. 淑徳大学短期大学部研究紀要56: 165-179.
- 5) 高原和子 (2011): 新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び. 青木理子・青山優子・井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・下釜綾子・高原和子・瀧信子・宮嶋郁恵. ぎょうせい. 28.
- 6) 小松恵理子・椿ちか子 (2013): 幼児の身体表現の効果的指導方法に関する研究—保育・言葉掛けプランニングシート作成の観点から—. 鹿児島女子短期大学紀要48: 69-79.

参考文献

文部科学省 (2018): 幼稚園教育要領解説. フレーベル館.

(2021年12月23日 受領/2022年1月6日 受理)